

インド*

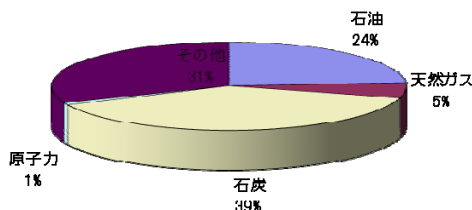
計量分析ユニット 研究主幹 浅見 康弘**

1. サマリー

1. エネルギー事情

インドはアジア地域の第2位、世界の第4位の一次エネルギー消費国(2005年)。インドは米国、ロシア、中国に次ぐ世界第4位の石炭資源保有国である。石油については、中国に次いでアジア・太平洋州で第2位の資源保有国である(2006年末)。

- (1) 一次エネルギー供給量 537,309 石油換算百万トン(2005年、日本の1.01倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 0.49 石油換算トン
(2005年、日本の11.8%)
- (3) エネルギー自給率 22.0%(2005年)
- (4) エネルギー起源CO₂排出量 1,147.46 二酸化炭素百万トン(2005年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源CO₂排出量 1.05 二酸化炭素トン(2005年)
- (6) エネルギー源別可採年数:原油19年、天然ガス34年、石炭2007年
(2006年末)
- (7) 原油生産量3,393万トン、原油輸入量1億1,150万トン、石油製品純輸出力1,577万トン(2006年度)、石炭生産量2億970石油換算万トン(2006年)



(出所) IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition

2. エネルギー政策のポイント

- (1) エネルギー政策担当機関
 - ①中央政府には、エネルギー政策の策定・実行機関である計画委員会(PC:Planning Committee)の他、エネルギー部門ごとに管轄する5省庁(石油・天然ガス省、石炭省、電力省、新エネルギー省、原子力庁)が編成されている。
 - ②政府においては、電力および新エネルギー分野での政策立案・実行の自由が付されている。
- (2) 基本政策
エネルギー分野を管轄する6省庁によるエネルギー政策はPCにより国家経済基本政策「5ヶ年

*平成19年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

**現在、グリーンエネルギー認証センター センター長。

計画」に織り込まれる。第 10 次 5 ヶ年計画 (2002-2007 年) におけるエネルギー政策の主要な基本課題は、①石炭および電力の生産拡大、②ハイδροカーボンの探鉱・開発強化、③海外石油開発権益の取得、④エネルギー部門構造改革・規制緩和の実施、⑤需要サイドの管理によるエネルギー効率化、⑥汚染対策の強化、⑦統合的なエネルギー・アプローチ、であった。2005 年 12 月には、包括的な国家エネルギー政策を策定すべく PC 主導の下、専門家を委員とする委員会が組織され、「総合エネルギー政策草案」が発表された。

(3) 最近の動向

2006 年 11 月、第 11 次 5 ヶ年計画 (2007-2012 年) の草案が PC に提出され、同年 12 月全国開発委員会により承認されている。さらに 2007 年 12 月に全国開発委員会が開催され、第 11 次 5 カ年計画本体が正式に承認された。同委員会でシン首相は、経済成長率について前計画の後半 3 年間の 9% 程度を維持するだけでなく、近い将来 10% にまで引き上げることができる旨を述べた。エネルギーと環境については、経済のエネルギー原単位を下げることが、エネルギーの安全保障と環境の双方にとってプラスになる旨を述べたと伝えられる。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- (1) わが国とインドとの間では原油・LNG 取引はないが、石油製品に関しては、日本はインドから 2006 年にはナフサ 273.8 万 KL を輸入している (輸入シェア 9.7%、第 4 位)。
- (2) 2007 年 8 月、安倍首相とシン首相は「新次元における日印戦略的グローバル・パートナーシップのロードマップに関する共同声明」、さらに「環境保護及びエネルギー安全保障における協力の強化に関する日印共同声明」に署名した。

2. 主要エネルギー指標 (2005 年)

(1)	一次エネルギー供給量	537.31	石油換算百万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.49	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.83	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	78.0	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	1,147.46	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	1.05	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	38.7	%
	石油	23.9	%
	ガス	5.4	%
	原子力	0.8	%
	水力	1.6	%
	再生可能エネルギー等	29.6	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	22.0	%
(9)	石油の輸入依存度	71.1	%
(10)	輸入原油の中東依存度 (2004 年度)	67.4	%
(11)	原油輸入先 (2004 年度)	第 1 位	サウジアラビア
		第 2 位	ナイジェリア
		第 3 位	クウェート

(出所) (1) ~ (4) 及び (7) ~ (9) は IEA 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition.

(5) ~ (6) は IEA 「CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」 2007 Edition

(10) ~ (11) は Planning Commission, Government of India 「Draft Report of Expert Committee on Integrated Energy Policy」 Dec 2005.